

# 讀賣新聞

2005年(平成17年)7月18日 月曜日

## 木炭の吸湿効果 アトピー改善に有効

ダニ、カビ抑制  
島大教授発表

木炭の吸湿効果が、アトピー性皮膚炎の症状改善に有効との研究結果を、島根大医学部の森田栄伸教授(皮膚科学)が17日、横浜市で開かれた第35回日本皮膚アレルギー学会で発表した。症状を悪化させるアレルゲンのタニやカビの発生を抑えるため、アトピー

性皮膚炎と木炭の吸湿効果の関係を検証したのは初めてといふ。

森田教授のグループと調査木炭を敷いたところ、6人中5人で発疹の範囲やかゆみの度合いを表す数値が12～5が低下し、ほぼ半減。アレルギーに関係するIgEという抗体の値も下がる傾向がみられた。

木炭を開発した出雲市出身士建(石飛裕司社長)などが共同研究。2003年5月から10か月間、タニやカビなどがアレルゲンとされると抑えられた。出雲土建は02年から廃

木材を再利用し、吸湿性の高い木炭製品「炭八」を開発。家の床下などに敷くと室内の湿度や建材の含水率が下がり、ダニやカビの発生を抑えられるとの結果を得ていた。

森田教授は「対象が6人と非常に少なく、慎重に評価したい」と前置きしたうえで、「1年以上薬物療法をしても症状が改善しなかった人が短期間で発疹が治まるかゆみも和らいだ。ダニやカビに強く反応する人は有効な治療法になりうる」と話す。今後は、症状と住環境の変化の関係を詳しく研究するといふ。